

< 就労相談・支援状況(経過報告) >

平成23年3月31日

1. 就労相談・支援状況(経過別)

	延べ件数	実人数	転帰						解決率	就職率
			就労	職場定着 相談	関係機関紹介 及び情報提供	継続	中断	不明		
平成17年度	39	16	1		6		3	6	43.8%	14.3%
18年度	22	8	1				3	2	12.5%	16.7%
19年度	30	7	1				3	3	14.3%	14.3%
20年度	93	10	2		2		4	2	40.0%	25.0%
21年度	207	25	6		11		6	1	68.0%	46.2%
22年度	242	33	6	7	11		6	2	72.7%	46.2%
計	633	92	17	7	30		22	8	51.1%	31.5%

(定着相談中の数)には、前年度以前にて就労された方もあります。
中断は病状の悪化、他の福祉制度利用、ボランティア参加などである。

2. 就労相談・支援状況(年齢別)

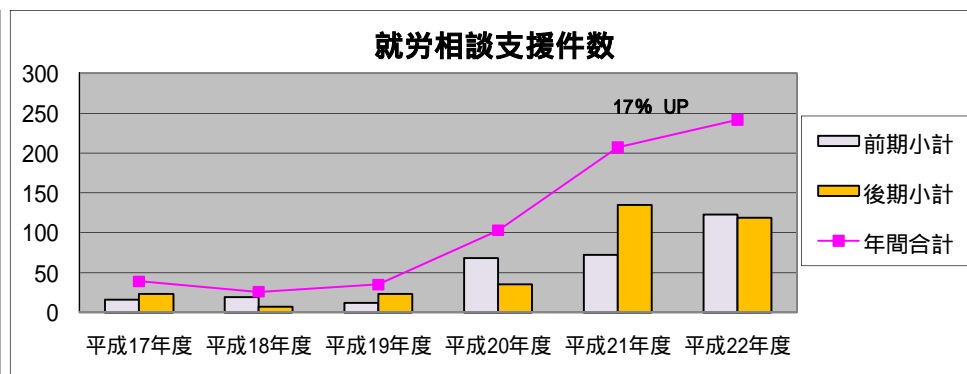
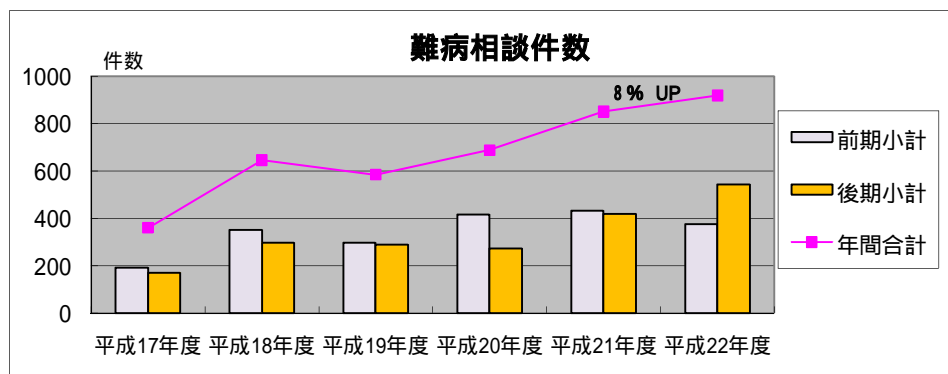
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明	20~30代 比率	40~50代 比率	60~70代 比率
平成17年度	1	6	5	2			2	43.8%	43.8%	
18年度	2	2		3			1	50.0%	37.5%	
19年度		2		2	2	1		28.6%	28.6%	42.9%
20年度	2	5	2	1				70.0%	30.0%	
21年度	4	12	3	4	1			66.7%	29.2%	4.2%
22年度	6	12	7	5	2			56.3%	37.5%	6.3%
計	15	39	17	17	5	1	3	55.7%	35.1%	6.2%

3. 就労相談・支援状況(疾患別)

病名	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計	22年度 疾患率	17~22 疾患率
網膜色素変性症		2	1	3			6		6.1%
クローン病		2	1		2	2	3	12.5%	10.2%
潰瘍性大腸炎		1			1	4	5	20.8%	11.2%
強皮症		1					2	8.3%	3.1%
混合性結合組織病							2	8.3%	2.0%
皮膚筋炎			1		1	2	2	8.3%	6.1%
多発性筋炎			1				1		1.0%
SLE	1	2	1	1	2	2	9	8.3%	9.2%
大動脈炎症候群	1						1		1.0%
ベーチェット病				1	2		1	4.2%	4.1%
シェーグレン症候群				1			1		1.0%
特発性大腿骨頭壊死症	1				1		2		2.0%
リウマチ							1	4.2%	1.0%
筋無力症	1		1				2		2.0%
ALS		1					1		1.0%
パーキンソン病					1	1	2	4.2%	2.0%
球脊髄性筋萎縮症						1	1	4.2%	1.0%
サルコイドーシス	1						1		1.0%
脊髄小脳変性症				1	2	2	4	16.7%	9.2%
多発性硬化症	1	1					2		2.0%
筋ジストロフィー	1						1	4.2%	2.0%
+		1					1		1.0%
拡張型心筋症	1						2	4.2%	2.0%
IgA腎症						1	1	4.2%	1.0%
ミトコンドリア病					1		1		1.0%
再生不良性貧血					1	1	2	4.2%	2.0%
後縦靭帯骨化症					1		1		1.0%
肺動脈性肺高血圧症					1	1	2	4.2%	2.0%
突発性難聴					1	1	2	4.2%	2.0%
難病指定(130疾患)以外	1		1	1	3	3	9	12.5%	9.2%
計	16	8	7	10	24	33	98		
疾患数	14	7	5	8	16	20	70		

「しまね難病相談支援センター相談件数及び就労相談支援件数」(時系列表)

月	平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度				
	支援センター相談件数	就労相談支援件数	支援センター相談件数	就労相談支援件数	支援センター相談件数	就労相談支援件数	支援センター相談件数	就労相談支援件数	支援センター相談件数	就労相談支援件数	支援センター相談件数	昨年差	就労相談支援件数	昨年差	
前期	4	31	3	40	2	65	1	78	15	78	16	65	13	23	7
	5	31	5	70	2	41	1	72	18	62	8	66	4	23	15
	6	29	1	50	0	44	0	70	14	91	5	66	25	20	15
	7	38	5	63	0	64	3	69	5	58	18	58	0	27	9
	8	33	1	61	8	56	4	63	8	68	7	45	23	14	7
9	29	1	66	7	26	3	63	8	75	18	75	0	16	2	
小計	半期計	191	16	350	19	296	12	415	68	432	72	375	57	123	51
	半期月平均	31.83	2.67	58.33	3.17	49.33	2.00	69.17	11.33	72.00	12.00	62.50	10	20.50	9
後期	10	37	10	51	1	62	6	68	11	95	26	104	9	21	5
	11	20	3	60	2	46	3	29	2	54	21	87	33	21	0
	12	26	3	47	2	34	3	38	5	72	19	83	11	18	1
	1	39	5	55	2	44	2	34	1	57	24	81	24	18	6
	2	23	0	36	0	60	4	48	8	56	19	98	42	19	0
3	24	2	47	0	43	5	56	8	85	26	91	6	22	4	
小計	半期計	169	23	296	7	289	23	273	35	419	135	544	125	119	16
	半期月平均	28.17	3.83	49.33	1.17	48.17	3.83	45.50	5.83	69.8	22.5	90.7	21	19.8	3
合計	合計	360	39	646	26	585	35	688	103	851	207	919	68	242	35
	月平均	30.00	3.25	53.83	2.17	48.75	2.92	57.33	8.58	70.92	17.25	76.58	6	20.13	3



平成22年度 就労相談支援(総評)

平成22年度の支援センターにおける難病相談支援件数は昨年比8%UPの919件。内、就労相談支援件数は昨年より17%UPの242件という結果。増加の要因としては、厳しい経済・雇用情勢によるもの、潰瘍性大腸炎・クローン病など炎症性腸疾患の若年層難病患者増加、また、センターのチラシ・ホームページなど広報戦略の充実や保健所など県内の関係機関からの紹介などが考えられる。こうした状況から見て、当センターは県内難病患者さんにとって安心して相談できる唯一の場としての役割、位置付け(必要・存在価値)が確立されてきた結果であると考えている。また、相談者の居住地もセンター所在地である出雲圏域内中心から隠岐・益田など県内全域に微増してきている。その他に今年度から遠方の相談者への取り組みとして保健所や相談者宅など訪問相談支援を始めたことや、就労後に突発的病状変化により職場定着が困難に陥りやすい患者さんへの定期的な定着相談の増大も新たな動きである。支援センターとしては、今後も就労相談ニーズ増大にあわせて、経験値を生かし、人員体制を含めた環境整備の充実をより図っていき、県内全域において更に踏み込んだ価値のある支援を行うことで「更なる支援センターの存在・必要価値」をより高めて、1人でも多くの難病患者さんやご家族の方の心のよりどころとなるべく努力していく考えである。